

大失業時代に俺たちの労働組合を

全造船石川島分会委員長・佐藤芳夫氏が講演 **7月11日**

日刊
動労千葉

87. 7. 16

No. 2603

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五、六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

第二期労働学校最終(12回)講座開催上

七月十一日、千葉県労働者福祉センターにおいて、「動労千葉第二期労働学校」の最終講座が開催され、全造船石川島分会委員長・佐藤芳夫氏、動労千葉中野委員長を講師に迎え、民間での創意工夫あふれた闘い方、資本の攻撃に対する労働者の側の構え、さらに、国鉄労働運動の展望などが語られ、受講者六〇名も有意義に学ぶなど、最終講座にふさわしい講演でした。

動労千葉労働学



石川島分会の例をあげながら講演する佐藤芳夫氏

全民労連は「壮大なムダ」

十時三〇分から佐藤氏の講演が始まった。議題は「大失業時代に俺たちの労働組合を」である。

まず最初に、この秋に結成されようとしている「全民労連」のことにふれて、「同盟や鉄道労連は排外主義を根幹とする帝国主義労働運動であり、今秋に結成される『全民労連』が五六〇万の労働者を集めたところで何も闘わなければ『壮大なゼロ』に等しい」と鋭く指摘。さらに、「総評、社会党も労働戦線統一の流れの中で右傾化する」と既成左翼指導部を批判した。

少数でも闘えば勝利できる

つぎに、資本の合理化の特徴については、資本家が労働者を管理するためには、賃金管理、労働時間管理、労働組合管理、個人・人間管理などあらゆる攻撃があり、これに対して労働者は、「少数組合であろうとも差別を恐れずに闘った時に資本のたくらみは粉碎される」と、

恐れずに闘う以外にないことを明らかにした。

さらに、石川島分会の闘いが報告され「70年の分裂以降十六年間奮闘し、『分裂しても闘える。分裂しなければ闘えない。闘えば成果がある』を実践してきた。毎年、定期大会で三つのスト権を確立して、いつでもストライキに入れるようにしている」と石川島分会の不屈の闘いが紹介された。

創意工夫をこらし

楽しく闘うこと

そして最後に、労働協約問題では「新会社」の協約について「石川島の同盟第二組合が会社と結んでいる協約より反動的だ」といくつかの例をあげて説明し、「不利な協約は結ばない。無協約でも闘える。石川島分会は十六年間結んだこともない」と強く訴えた。

講演終了後、受講者と佐藤氏との間で質疑応答が行われた。出向は絶対に拒否する、石川島では拒否をかちとった。配転は受け入れ先がなくなるような闘いをやる。小集団活動では「タダ働き」などの不当性を見つけ出し暴露する。敵の攻撃を研究し、楽しく闘うことも必要だ。体操拒否、稲荷神社のお参り拒否など、創意工夫をこらして闘うことが必要であることなど、約一時間にわたって討論が行われた。

(つづく)